

2021年度 保健医療技術学部【結果】

PLAN(計画)	DO(実施)		CHECK(評価)		ACITON(次への改善)	
<p>P:目標を策定、実現するための具体的な方法を考える。</p>	<p>D:計画を実行しその効果を測定する。</p>	<p>実施状況(実施率)</p>	<p>C:目標とその実践の差異、実践した行動の評価・分析を行う。</p>		<p>A:課題や問題点についての改善、対策を行い、次への「PLAN」へ繋げる</p>	
<p>1) 教育 面接授業を57%の科目で実施する時間割を策定した。教員自らが感染予防策を遵守・励行し、学生と連携して最高の教育効果を維持できることを目指す。 学生による授業アンケートの平均点4.20(前年度4.09)、学修状況調査に基づく授業満足度70%(前年度49%)への回復、そして、KPIとして5月1日在籍者ベースの進級卒業率と国家試験合格者の相乗平均を掲げ、93%(前年度92.2%、前々年度91.8%)を目標値に設定する。 授業改善に向けた取り組みが学生に見えるように、教員が学生アンケート結果を踏まえてどのように改善を図ろうとしているのか、学生に公開する。 学位授与方針にある専門職の倫理、知識・技能、協働力と自己成長力について、基礎分野、専門基礎分野、専門分野のコアとなる科目を通して総合評価を行う。4学科で国家試験対策を実行する。 高大連携の取り組みを加速させ、入学前教育、初年次教育、能動的学修の推進に還元する。4学科でおのおの新生入修修を継続する。</p>	<p>1) 教育 前期は計画通りに、後期は当初感染状況からオンラインを原則とした。後期に限ると面接授業は54%の率になった。感染予防策を遵守・励行した。感染者・濃厚接触者に対して不利益のないように配慮した。 授業アンケートを踏まえた教員の授業改善方針を学生に公開した。 DP到達度チェックを実施した(実施率82%)。学部FDで「ディプロマ・ポリシー」とその到達度評価:整合性の確認と学部充填指標の選定」について討論が行われた。 各学科で国家試験対策を実行した。一部の学科でコロナ感染禍による直前対面指導の制限、主要科目専任教員の退職に伴う人員不足が実施率低下に結びついた。 併設校との連携で単位認定プログラム、年内入学選抜試験合格者対象の入学前教育を実施した。新生入修修を実行した。</p>	<p>学生による授業アンケート実施(回収率64%) 学修状況調査実施(回答率52%) 学部FD実施(参加率93%) 国家試験対策実施率:理学療法学科、75%;作業療法学科、100%;臨床検査学科、70%;看護学科、100%。</p>	<p>概ね計画通りに面接授業が実施された。一部、感染状況に応じてオンライン授業に切り替えられた。 学生の授業アンケート(平均4.22点/5点満点、目標値の0.5ポイント上)と学修状況調査(授業満足度87%、目標値の24ポイント上)の結果、学生の臨む学修環境が回復したことが示された。 一方、学修効果(5月1日在籍者ベースの進級卒業率83.0%、前年度の6.3ポイント下、国家試験合格率94.9%、前年度の0.1ポイント下、これらの相乗平均(KPI)88.8%、目標値の4.2ポイント下)が十分に得られていなかった。 国家試験対策が一部の学科で予定の100%実施にいたらなかった。 学部FDで、理念的なポリシーの具体化、国家資格を離れた目標設定の可能性が課題としてあげられた。 初年次教育・能動的学習の推進に係る行動が具体化されなかった。</p>	<p>学生による授業アンケート:前期4.19、後期4.25、通年4.22 授業満足度:87% 進級・卒業率:83% 理学療法学科 89% 作業療法学科 83% 臨床検査学科 82% 看護学科 79% 1年 71% 2年 80% 3年 94% 4年 92% 国家試験合格率(新卒): 理学療法士 97.4% 作業療法士 97.0% 臨床検査技師 86.5%</p>	<p>対面授業を75%以上で実施する。オンラインを有効に使用して、質の高い授業運営を実施するとともに、授業感染対策を継続して学内クラスター発生を回避する。 4学科共通で初年次から学習の質を上げ、知識の定着を図り、進級・卒業率の上昇を図る。臨床検査学科においては特に4年にわたるグループ学習を策定し、すべての学年にわたる留年の減少を図る。 ディプロマ・ポリシーを見直し、具体的な評価が可能な内容に置き換え、それに到達する人材育成に務める。国家資格を離れたディプロマ・ポリシーの設定について議論を継続する。 4学科合同4年必修科目のチーム医療論Iに人間学部人間福祉学科ソーシャルワークコース生の履修を受け入れ、地域連携の要素を組み入れた内容にしていく。一方2022年度は、3年連続で日程の合わない看護学科と他の3学科に分かれて開催される。2023年度に向けて4学科合同開催に戻す方策をたてる。</p>	
<p>2) 研究 研究倫理を踏まえた研究計画・実施が質的・量的に継続して増していく環境を整備する。 競争的資金獲得を促進する。特に科研費の応募を推進し、6件の採択を目指す。 大学院生・教員合同の研究を促進する。学部紀要への大学院生の論文投稿を誘導する。</p>	<p>研究倫理審査委員会の研究領域別分割について協議し規定改定の作業を行った。 科研費応募に向けた支援が総合研究所を中心に行われた。教員の研究活動の評価が担当講師、助教、准教授、教授対象に行われた。 大学院生と学部生の紀要投稿にかかる方針が共有された。</p>	<p>概ね計画通りに実施された。</p>	<p>萌芽的研究を残して5件の科研費内定を得て、ほぼ目標を達成した。看護学研究科1件を入れて看護学領域が5件で、研究推進が軌道に乗っていることが伺える。 2022年度共同研究費の応募件数が9件であった。件数が今年度の12件から25ポイント減少した分、充当率は改善する見込みとなった。</p>	<p>科研費応募31件、萌芽的研究の4件を除く27件のうち内定5件(2月28日現在)</p>	<p>研究環境の維持・改善を図るための施策を講じる。 研究時間と資金の確保、研究者同士の情報交換を課題とする。 研究倫理の講習会を行い、人を対象とする研究活動の内実化を図る。 他施設との共同研究の拡充と、競争的資金の応募による研究計画の推進を図る。</p>	
<p>3) 運営 入学定員の確保に重点を置く。各学科・専門職の魅力を受験生に伝え、「共育力」を説明する。 教員組織の維持、医療技術者養成所指定規則に則った教育指導体制の維持に努める。 学部委員会の委員長と学部長で協働して、各委員会の役割の認識共有を図る。</p>	<p>総合型選抜、学校推薦型選抜、全学統一選抜、一般Ⅰ期、一般Ⅱ期、一般Ⅲ期に加えて3月に特別入試を計画した。オープンキャンパスで学生による説明を通して本学の魅力をアピールした。 専任教員の異動に応じた採用および昇任に関わる12件の人事審査を実施した。理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則の改正に伴う専任教員による臨床実習指導の増加に対応するための施策を講じた。 委員会の役割の認識共有作業に取り組み、文書による委員会活動の引継</p>	<p>一部内容に追加、削減をして実施された。</p>	<p>2022年度入学学生選抜の結果、3学科で定員数に達せず、学部としても定員数に達しなかった。受験生の心に響くメッセージを十分に届けことができなかった印象である。 専任教員の中途採用3名、次年度採用9名の人事を実施した。また、次年度から理学療法学科と作業療法学科に特任助教をおくことで実習指導にあたる十分な教員数を確保した。 委員会活動の引継ぎの結果は次年度にわたって評価される。</p>	<p>志願者数 1076人 合格者数 578人 入学者数 276人 定員充足率 92% 学生生活満足度 70%</p>	<p>多様な学生が学びを継続していく様子を、SNSを使って情報発信する。 専門職資格を活かした就労の可能性の広がりを把握し、その勤務条件に合う学位・資格・スキル獲得のためのコース策定を中期的に検討し、入学定員の充足を図る。 各委員会活動の引継ぎが行われたことを確認し、その内容を学部教員全体で共有、可視化する。</p>	
<p>4) 社会 学生、卒業生のキャリア支援を継続する。就職希望者の100パーセント内定を目指す。 埼玉東上地域大学教育プラットフォームに関わる活動を選定する。 国際交流に関わる学部の取り組みを継続する。オンラインによる留学を推進する。 保護者会、後援会と連携した教育を持続させる。 病院施設の実習指導者育成に協力する。</p>	<p>各学科で就職支援活動が順調に行われた。 TJUP活動として、公開講座に学部教員が参画し、単位互換制度の科目を次年度に向けて定めた。 海外短期フィールドワーク(カナダ)とマレーシア国民大学(UKM)との学生交流はコロナ禍のため、中止となった。UKMとのオンライン交流会がのべ4回開催された。また、BGUヘルスフォーラムがオンラインで開催され、海外講演者のオンデマンド講演をもとに討論が行われた。 9月開催予定であった保護者会総会対面実施に合わせた学科とキャリア説明は、コロナ感染拡大により中止となり、代わりにホームページを通しての情報発信を行った。10月25日～29日に対面授業の公開を実施した。</p>	<p>概ね計画通りに実施された。</p>	<p>例年通り臨床検査学科で国家試験の後の就職活動が進んでいけば、就職希望者の内定率100%を達成する見込みである。 オンラインによるマレーシア国民大学(UKM)との交流に本学部学生が18名、UKM学生37名が参加し、学生間で自己紹介、リハビリテーションの学びについてのプレゼンテーションが行われた。BGUヘルスフォーラムには167名の学生が参加した。 授業公開ではのべ31名の来校を受け入れた。</p>	<p>就職内定率(4/8) 全体 97.8% 理学療法学科 100% 作業療法学科 100% 臨床検査学科 90.7% 看護学科 100% 就職希望者数と卒業生数との比率 全体 90.3%</p>	<p>キャリアセンターと連携しつつ、学科ごとの就職支援・指導を継続する。 社会連携研究所と連絡を取って、TJUPを含む地域連携活動に参加する。 保護者、後援会との連携を図るために、保護者会支援として行ってきた活動を大学・学部として継承する。学生の学修状況、キャンパス・ライフの説明、キャリア支援の報告・説明、保護者面談、授業公開等の企画を実施する。 COVID-19拡大状況に応じて、対面の国際交流、地域交流活動を再開する、もしくはオンラインでの交流を行う。</p>	

2022年度 保健医療技術学部

PLAN(計画)
<p>P:目標を策定、実現するための具体的な方法を考える。</p>
<p>1) 教育 ①原則として面接授業を実施する。感染予防策を遵守・励行し、最大の教育効果を維持する。 ②学生による授業アンケートの平均点4.30(前年度4.22)、学修状況調査に基づく授業満足度90%(前年度87%)、そして、KPIとして5月1日在籍者ベースの進級卒業率と国家試験合格者の相乗平均92%(前年度88.9%、前々年度92.2%)を目標値に設定する。 ③4学科で新旧カリキュラムの移行が進行する。科目の再編などに対応する。 ④学位授与方針(ディプロマポリシー)を、客観的な評価が可能な内容に改定する。 ⑤4学科で国家試験対策を実行する。 ⑥臨床検査学科で学年横断的グループ学習を推進する。 ⑦4学科合同科目「チーム医療論I」の運営方法を見直す。</p>
<p>2) 研究 ①研究倫理を踏まえた研究計画・実施が質的・量的に継続して増していく環境を整備する。 ②競争的資金獲得を促進する。特に科研費の応募を推進し、6件の採択を目指す。 ③共同研究を促進する。</p>
<p>3) 運営 ①学生募集にあたって、学部の魅力をSNSを使ってアピールする。 ②退学者を減らすために、国家資格にとらわれない就労・指導の方針について検討する。 ③転学部・転学科が容易となるようなシステムを検討する。 ④教員組織を維持し、連携を推進する。 ⑤学部委員会活動の引継ぎを踏まえて、定式化できる作業行程を吟味し、整理を図る。</p>
<p>4) 社会 ①学生、卒業生のキャリア支援を継続する。就職希望者の100パーセント内定を目指す。 ②埼玉東上地域大学教育プラットフォーム(TJUP)、東京都医療人材派遣に関わる活動を継続する。 ③国際交流に関わる学部の取り組みを継続する。リアル留学の再開を目指すとともに、オンライン交流の利点を踏まえて継続する。 ④後援会と連携した教育を持続させる。 ⑤病院施設の実習指導者育成に協力する。</p>
<p>4) B'Vision 2024に向けての取り組み ①国際化に対応した地球市民の育成 通常授業の中で英語の情報を付加する。 ②ストレス耐性を持った人材の育成 協同学習を推進する。 ③永久サポート大学 卒業研修に協力する。 ④教育力日本一 学生との対話を促進する。</p>